

河童ちやいまっか？

★武庫川水系 青野ダム
☆東浦公園周辺

梅雨が明けた頃のある土曜日の夜明けが近い東浦公園前の湖畔・・・

まだ夜が明けやらぬうちから静かに佇み・・・
右手には8フィート6インチの5番ロッド・・・
#6のポッパーがセットされている。

バスが水面に出る音に、耳を澄まして集中すると・・・(ハシヤン！・・・)

「もう始めとんな・・・(今日はバンバン出るかも?)」・・・辺りのシャローエリアでバスのバイトが始っていた。

(ポチャン・・・)目の前の湖面で音がした。
「???なんや?」

(ハシヤバシヤ・・・ポチャン)
「???なんや?バスか??」

目を凝らして湖面を観るが、その日は薄暗い日明かりで未だよく見えない、しかし、左手は無意識にリールからラインを引き出している。

(ザブーン!・・・)射程距離内で何かが水面で反転した。はっきりとは見えないものの薄明るく光る湖面で何かが素早く水面を割って水中に戻った。

「バスか?あれ?・・・でかいぞあゝ・・・
よっしゃあゝ・・・もうちょっと明るならんかい・・・」

この状態でキャストしてもウィードが多く、失敗すればすべてが水の泡である。
薄暗い日明かりとは言え、自も暗闇に慣れてくると少しは見える様になってきた。

(ザブーン!・・・)また何かが水面で反転したあと、(ポチャン・・・)と黒い物体が水面から顔を出し、プカプカ浮いていると思いきや、(スゥゥ・・・)と水中に消えていった。

全身鳥肌が立ち、無意識に水際から後退り始めた所で小声で後ろから話しかける男がいる。

男「釣れますかあ?」

私「ぐわあゝ・・・ビックリした。」・・・見ると一人のルアーマンが突っ立っている。

私「それより、さっきからこの前で何か泳いでんねん・・・なんやろ?」

男「ええ・・・なんでっか?」
私「見とってみい・・・」

(ザブーン!・・・)また水面を割った後、(プカッ!・・・)と水面から顔を出した。

男「うわあ・・・なんやあれ?」
私「さっきから居んねん・・・なんや思っ?」

男「もしかして河童ちやいまっか?」
私「んな訳ないやろあ・・・河童やったら捕まえて見せモンにしようか?・・・」

儲かるでえゝ・・・」

男「エエなあゝそれ・・・でも、だいぶ明るなって来ましたね。今度出たら判るかも・・・」

(ザブーン!・・・プカッ!・・・)
私「あそこやあそこ・・・」

男「あゝ・・・ラッコ・・・ラッコですよん・・・ほれ・・・」

私「ラッコ?・・・ラッコって海ちゃんか?・・・んな訳ないやろあ・・・」

男「水族館から逃げたんちやいまっか?」
私「はあゝ・・・須磨からここまで逃げてきたってかあゝ・・・んなアホなことないやろゝ・・・」

夜が明け始めた湖畔で初対面の男が二人で珍

問答・・・これもまた関西ならではである。

男「あっ！・・・あそこあそこ・・・わかった！

カワウソですよんー！・・・」

私「カワウソ？・・・ホンマかいな・・・」

男「びっくりしますねえ・・・マジで・・・こんな

な所にもおるんや・・・」

私「あゝ・・・ホンマやなあゝ・・・」

男「そやけど・・・あんなん居ったら釣れまへ

んで・・・ココ・・・(笑)」

私「そりやそうやなあゝ(笑)」

漸く夜も明けて夏の朝になろうとしていた。

男「さあ・・・お陽さん出るまでにサッサと釣

らな！・・・河童とちうて残念でし

たね(笑)・・・ほな・・・」

私「ホンマや！(笑)・・・まあ、頑張って・・・」

夜明けの珍事件も「カワウソ」と言うことで

漸く解決してその日はウィード周りで小バスが

面白い様にポップーに出てくれた。

しかし、よくよく考えると天然記念物のカワ

ウソがこんな関西のベッタウソに程近いリザ

ーバーに出没するわけが無い。

色々調べると正体がやっと判明した。

ヌートリア・・・これに間違いない。

何でも南米原産の湖沼鼠の一種で近年ペット

が逃げた播州平野の池で繁殖してこの頃のシロ

である。

北米原産の外来魚を釣りに行って、南米原産

の湖沼鼠に惑わされ・・・日本古来の伝説上の動

物『河童』を連想している所に少し蟠りを感じ

るが、河童の伝説を辿ればカワウソがモデルで

あるとか、『川獺』で検索すると妖怪の話に行き

当り、このカワウソも天然記念物となって稀少

動物となってしまう今日では、これまた外来

の動物が補って『河童』伝説を更新させていく

のも致し方ないのかもしれない。

「舶来の釣り方で外来魚釣りに行ってんねん

さかい・・・こもなるわなあゝ・・・」

それからこの『河童』ならぬヌートリアは

毎回河童の様に登場し、愛嬌を振りまいた。

夏も終わりかけの夜明けにルアーマンが二

人・・・湖畔に佇んでいる。

私「釣れまっか？」

ルA「何か・・・何かこの前で音がします

ねん？・・・」

ルB「何かおるわ！・・・あそこ！・・・」

私「あゝ・・・ヌートリアやろ？」

ルA「ヌート？・・・何ですのそれ？」

私「ネズミのこついで奴や！・・・前から居

んねんココ、猫くらの大ササヤやな」

ルA「エッ・・・エエ？・・・猫って・・・こんな

なでっかいネズミ？」

私「あゝ・・・あそこあそこ・・・浮いてる

やろー！」

ルA「ううわあ！・・・何やあれ・・・

でっかあゝ・・・！」

ルB「あれ・・・ラッコやんけ！・・・」

ルA「あっ・・・ホンマやそうや！・・・

ラッコや・・・ラッコですよんあれー！」

私「・・・(やっぱり関西人や・・・こいつら

人の話聞けよー)」

ルB「ラッコやあ・・・何でこんなとこに居ん

ねん・・・」

ルA「あっ！・・・潜りよった！・・・ビックリ

やなあゝ・・・」

私「ワシも最初はカワウソや思ったけど・・・

ネットで調べたら、ヌートリアちゃう

ネズミや・・・」

ルA「カワウソ？・・・何ですの？それ・・・

どう見てもラッコですよん・・・」

私「・・・(このドアホ！・・・カワウソ

くらい知っとけ！日本人やろー！・・・)」

ルB「あそこあそこ・・・ほれー！」

ルA「どっからきたんやろ・・・」

私「ラッコに似てるけどヌートリアや！・・・

ネットで調べてみてい

ろ・・・(車に乗る為にその場を立ち去り去り出して

た。

まだまだ背後で会話は白熱している。……
ルB「……○※ロ中?▲……!」
ルA「ぞX中??……水族館……」

そうやー!……6?と■X??……」

「はあ……なんに頭が温い輩
が多いんやろ……」

駐車場に戻り、彼らの車を見ると……私と同じ大阪ナンバーである。

「やっぱり……こりやあ淀川の水飲んで育つ
たらあないなんねなあく……ありややっ
ぱし……淀川の水に何や混じってるとえ……
絶対なんかあるな!……ホンマ……あれ?
タバコあらへんやん?……どこいきよ
った?……どこにあんねん?……どこや
ねん!……買おうたばっかしやのに……
誰じゃ!……こんなとこ置いたん!……」

……(っってお前やろ)……
私も他ならぬ頭がかなり温くなり過ぎた……
コッテコッテの関西人ある……
毎度お!……お読み頂き、ありがとやんで……

■青野ダムの二案件

塚らつく二無沙汰しているがヌートリアの居る
東浦公園からインレットまで一時期バスの数釣
りに熱を上げた時期があった。サイズは一庫タ

ひより劣るが数は圧倒的にこちらが勝っていた。

おそろく遠浅になっており、そこそこのサイ
ズは沖合いのかけあがり溜まっていて立ち込
みやボートのルアーマン任せのしかなく、フラ
イではシャローに生い茂る草の脇やインレット
周辺の木の下などルアーマンが敬遠するところ
に溜まっている小バスを狙うことになる。

陽が射すまでは#6のポップパーが手取り早
く、手返しの速さが釣果に直結する。陽が昇る
と同時に水面を割るのはギルばかりになってし
まい。タイプリーで少し沖合いにキャストして小
さめのストリーマーを引くのも良い。

曇り空の時はフローティングラインでリーダ
ーをやや長めにとってブラックモンタナやウイ
リーバグのスローリトリープで結構当りが
出る。どれもこれもサイズとしては20〜30
センチ程度であるが、余程のことが無い限り夜
明けから10時頃までで二桁前後が何時ものパ
ターンだった。完全に陽が上がってドピーカー
になるとインレットの木陰を狙う……フライ
はマラブームドロー#8を浮かべるか、サビキ
スキンで巻いたシュリンプを沈めるか、はたま
たメダカストリーマーで誘い出すか……なんだ
かんだで終日バスと遊べる釣場である。

しかし、残念な事に捨てられたフォームをあち
こちで目にする……釣ってる段階でブレイ
クしてロストするのは致し方ないが、とてもそ

れだけとは思えない。

お願い……

使えなくなったフォームや毛鉤は持ち帰って大
切に葬ってあげましょう。

そして、一度飼うと決めた動物は最後まで飼
い続けて頂きたい。

愛嬌満点のヌートリアを観るとつくづくそう
思います。

最近二無沙汰なので……
どうしていることやろ……



2007年 10月